



「平成百景」に『阿蘇山』が選ばれました

新時代にふさわしい日本の風景を選定した「平成百景」（読売新聞創刊135周年記念事業）に、『阿蘇山』が選ばれました。「平成百景」は、日本人が誇る風景を国内外に情報発信することで地域振興を図ろうと、読売新聞が今年1月から3月にかけて読者からの投票を募り、64万票を超える投票の結果からさらに専門家からなる選考委員会を経て選定したのもので、見事『阿蘇山』は上位21位に入りました。

これをうけ8月3日、読売新聞熊本支局長野間潔氏が阿蘇市役所を訪れ、佐藤市長に「認定証」を手渡されました。野間支局長は「雄大でたおやかな風景が人々を惹き付けてやまない魅力を持っている証左」と挨拶され、佐藤市長は「これまで皆で景観を守ってきたことがうかばれた感じ」と述べ、選定による全国PRを喜びました。

福岡市と岡山市で阿蘇の観光・物産をPR!



阿蘇市観光協会・阿蘇草原再生シール生産者の会・阿蘇テレワークセンター・市商工観光課は、7月31日に福岡市天神で開催された「夏休みに行こう!九州の旅」観光物産展、また、8月1・2日に岡山市で開催された「第9回おかやま桃太郎まつり」に出展し、阿蘇の観光地や物産をPRしました。

これは、平成23年の九州新幹線の全線開業を見据え、重要なターゲットエリアとなる福岡市や岡山市における阿蘇の認知度や関心を高め、誘客の拡大につながることを狙ったもので、特に、岡山市での出展は、初めての試みとなりました。会場は大勢の家族連れなどで賑わい、JA阿蘇から提供の桃太郎トマトの無料配布や新鮮な野菜などの特産品を販売し、好評を博しました。なお、岡山市の出展では、岡山熊本県人会「火の国会」（上田勝廣会長）の皆さんが応援され、一緒に観光パンフレットを配布するなど、阿蘇の観光PRに協力をいただきました。市では、今後もあらゆるPR活動を展開し阿蘇の魅力を発信していきます。



"お互い高菜が特産"で国際交流

韓国で阿蘇と同じく高菜を特産としている全羅南道麗水市が高菜キムチで経済効果を出しているとして、麗水市の農協を、阿蘇高菜による地域活性化に思いを寄せる山中淳さん（宮地）ほか9人が訪ねました。農協では広い加工場を見学し、また、高菜に精通した全南大学の崔教授より説明を受けるなど、隣国の高菜の取組を研修しました。

崔教授は3年前、評判のよい阿蘇高菜を調べに阿蘇たかな祭りを訪れており、阿蘇高菜のおいしさを認めるお一人。視察を終えた山中さんは「韓国の高菜キムチの需要は国内外で大変伸びておりヒントを得ることができた。麗水市の高菜よりクセが無くおいしいと絶賛された阿蘇高菜に、改めて誇りと可能性を感じました」と語られました。